

調査日 素材生産協同組合 6月7日

今回は広葉樹エリアに黒柿が出ていた。2本だが、長さは共に2.0mで太さは22cmと24cm  
形状は2本とも”くの字”に曲がり  
薪にすればすぐに使い切ってしまう位の材積だ。

写真は末口22cmのほうの物件だ  
二つある末口の両方に黒柿が  
見えている。

白太の部分には価値がないので  
使える部分は僅かだが、2.0m  
全体にタンニンが回っている  
事が判る。



もう一本の24cmの方は末口は真っ白で元口の黒さは大きい、そこから30cm程度しか  
色がない事が判る。どちらも1本単価の入札であったが、写真の物件は  
1本23,400円(@241,200<sup>円</sup>/m)・もう一本は33,000円(@287,000<sup>円</sup>/m)だった。  
2本で杉の3.0mのA材で約40本相当になる。見逃せば林内に打ち捨てられる運命だろう。  
針葉樹のほうは少し片付き始めた様だ。入口辺りは相変わらず荷降ろしは勝手放題なので  
隣の加工協同組合との境界ぎりぎりまで塞がっているが、反対側へ回って見ると身動きが  
とれる場所が広がったように思う。実際皮がむけた古い材が見えるようになっている。  
これは、皮のおけ方から見て、今年の梅雨から夏にかけてに伐採された材だ。

あまりの古さに売約済みの材だと思っていたが、未選別の材だと言うので驚いた。  
整備環境森林事務所長だった剣持氏が素生協の新所長として着任したが、着任早々  
出荷者からの苦情電話の対応で閉口していた。

3.0m材については、素生協の選別は径級別だけなので良材も若齢材も込み桎となる。  
その点では@10,000<sup>円</sup>/mはこの時期としては良い値だと思う。但し今まで柱材として最適  
とされてきた16cm~18cmの太さは選別が雑だと全く売れない。

今回も様子見で@7,000<sup>円</sup>/mほどの札があったが、さすがに落札には至らない。

昨今の機械任せでの製材には、太目の方が無難という事かもしれない。

県森連の渋川工場も、受け入れ価格を下げるとの事。A材が@10,000<sup>円</sup>/mなら平均では  
@10,000<sup>円</sup>/mを大きく下回る。この数字は暗に”入荷を控えたい”と言っているのだろう。

今の市況では、3.0mから4.0mに重心を移して急場をしのぐ事も考えなければならないかもしれない。

調査日 群馬県森林組合連合会共販所 6月17日

県森連の市は更に深刻さが増していた。

実はこの日は鈴木木材部長に、渋川工場の買取価格の急落について、少しの苦言方々、様子を聞いてみようと思っていた。

しかし、市が始まると、素生協の市から10日の間に業界自体がさらに悪化していることが表面化していた。原因はと言えば、売り方も、買い方も異口同音に「急に潮目が変わった。」と言っている。

明細書を見ても判る通り、空欄が目立つ。不落札ではなく応札がないのだ。落札物件も、10,000<sup>円</sup>/m<sup>2</sup>を超える物件はほとんどない。

これは10日前の素生協の市より状態が悪い。

売り方も、応札が無ければ”取り付く島が無い”訳なのでお手上げ状態

買い方も「これじゃあ気の毒だから、あと何口かおつきあいしよう」

と言う事で空欄の物件に値段をつける。売り方は「その値では、一回目で落札した物件と整合性が取れない。あと500円出してくれないか？」

と言った調子で、札の入った物件、声の掛かった物件は何とか売ろうとする。

事実、今回応札があった物及び再入札があった物で、不落札はなかった。

素生協で偵察で入れた7,000<sup>円</sup>/m<sup>2</sup>代の物件を不落札にしたが、10日後には

「札を入れた買い方は絶対逃がさない」といった気迫で、結果発表時に、不落札と発表する前に、札を入れた人に「この物件はあと1,000円何とかありませんか。」

とか言って交渉し、落札している。

◎市場も買い方も「こんな値の下がる季節に、お構いなしにどんどん伐っている」

「生産者は決められた量をこなすことを優先して、売ることは考えないのか。」と言っている。

確かにその通りだが、生産側も生産量を増やそうとするあまり、やむを得ない事情がある。

急な潮目の変りなら、かならず反発が起こるはずである。

まだきっかけはつかめないが、この時期たとえ一瞬でも、市場を空にして見せる必要がある。それは素生協と県森連と一緒にやる必要がある。昔は自然にそうになっていたが、様々なルートで、丸太が流通している今、効果は薄くなってしまった。しかし市場としては総蔵ざらえ売り尽くしセールをやって、「本日から新材の市になります。」というのが常道である。県森連で私が始めた”秋の需要先取り特別市”はこれを狙って制定した。